2018 年小屋作業に参加して～甦った新道～

20 期　松下　和隆

【日程】

① 2018 年春、6 月 2 日～6 月 4 日（2 泊 3 日）

② 2018 年秋、台風 24 号のため中止。

【参加者】

■　OB（12 名）

（13 期）大島良治、辰野隆義、吉本良治、

（15 期）上馬康生、奥名正啓、坂尻忠秀、松縄宏、

（16 期）北川隆次、

（17 期）上田喜久雄、

（19 期）栂典雅、

（20 期）久富象二、松下和隆、

（22 期）黒崎敏男

■　現役（3 名）

（61 期）山本球、

（62 期）笠島聡一郎、吉田優輝

■　集合写真（ベルクハイム、6/2 上馬氏撮影）

後列左から（敬称略）、松下、栂、笠島、吉田、山本、大島、上田、辰野、前列左から、上馬、坂尻、松縄、奥名、黒崎、吉本、北川

【1】崩壊が進む、倉谷の道

春の小屋作業は、新緑とそよ風に包まれ、犀川ダム湖畔を歩く足取りもすこぶる軽やかです。ただ近年は、出島を過ぎたあたりから、倉谷沿いの道が激しく崩壊してきており、歩いていてもちょっと気が抜けません。つり橋を渡って倉谷川沿いにさしかかると、毎年のように道が浸食されていく様子が、はっきりと分かります。特に雨量計付近の道は、浸食が激しく、道が徐々に削れていく様子が手に取るように分かります。コムラ谷から雨量計の手前までの区間は、昨年の秋と比べてみてもその変化は著しく、やがて道がなくなるのも時間の問題かと思われます。

浸食が進む道 Before/After（雨量計の手前、左は昨年 9/30 撮影、右は今年 9/20 黒崎氏撮影）

また、雨量計過ぎの「へつり」の個所は、吊るされた丸太の上を今までは何とか通行可能でしたが、現在は（黒崎氏の 10/2 下見報告によると）難所の距離が更に増大し、最後部分はなんと大岩をよじ登らなければならなくなってしまいました。また先日の台風 24 号の増水で、丸太の一部が流された模様で、今現在 10/2 においては、通行不能の状況です。

増大する難所（雨量計過ぎの「へつり」、左は昨年 5/13 撮影、右は今年 9/20 黒崎氏撮影）

【2】高巻ルートの整備

前述の難所を迂回するべく、昨年から高巻ルートの整備に着手しました（下地図を参照）。

高巻ルートの水平化案（栂氏作成）

昨年は従来ルート（緑色）を整備しましたが、ベルクハイムの裏をかなり登らなければならず（50m 程度）皆さんからの評価はイマイチ（いやイマニかな）でした。そこで今回は、その水平化を試みるべく新ルート（赤色Ⓐ）を新設しました。

若干斜めに登りますが（20m 程度）従来の急登に比べれば歩き易くなったかと思います。コムラ谷の出合までは、従来のヤセ尾根（緑色）を活用します。鉄塔がやがて現れてきますが、ここからコムラ谷へどうやって下るかが、今現在、課題として残っています。

最短ルートは赤色ルートⒷなのですが、ここはあまりにも急坂で不向きでした（栂氏調査より）。残るルートは、昨年、暫定的に刈払った緑色ルートⒸもしくは以前からあるルートⒹかと思われますが、それぞれ一長一短あり、どちらが良いか今後の調査と検討が必要です。ルートⒸは倉谷の道からすぐに登れるのがメリットですが、斜面は急傾斜で、うまいルート選定がカギであり、重い荷物のボッカも想定した緩斜な道を作る必要があるでしょう。一方、ルートⒹは昔からある道なので少ない労力で整備できるかと思います。しかし、この道も現状ではかなり急登なので、緩斜道への付替えが必要です。また出合からのアプローチも長くかつブッシュにすぐ覆われてしまうので、保守がちょっと大変そうです。ここはひとつ、皆で良い知恵を出し合いたいものです。

【3】水が出ない…

冷えた缶ビールが飲めるぞ！…小屋に到着したらすぐさまこの目的を達成せんがために、のんべーの皆さんが沢の取水口へと出向きます。しかし、なぜか今回はいくら待っても水が出ません。原因は取水ホースの漏水でした。ホースの劣化がかなり進んでおり、数か所から漏水しています。一部を大島さんが応急手当し、なんとか水が出るようになりましたが、水量は明らかに落ちてきています。来年の課題がまたひとつ増えました。

ホースの漏水手当（ベルクハイム横の谷、6/2 撮影）

【4】ベルクハイムの夕べ

一日目は前述のような作業やトラブルで、あっという間に時間が過ぎてしまいました。午後 4 時頃にはもうみんな腹ペコです。作業をちょっと早めに切り上げて、夕食とすることにしました。小屋からは何やらいい匂いがしてきます。黒崎シェフが腕に寄りをかけてじっくりと煮込んだ特製カレーです。ベルクハイムが、レストランへと変わりました。

黒崎シェフの特製カレーを堪能（6/2 上馬氏撮影）

夕食後は囲炉裏を囲んでみんなで談笑。山奥なので誰に遠慮することもありません。明日、新道が高三郎まで開通するだろうことを祝して、横断幕の文言をみんなで考えることにしました。「祝、KUWV 高三郎新道、甦」と決まりましたが、なんと「甦」の一文字が、誰も正確に思い出せません。あーだこーだと悩んだあげく、最後に、現役生の山本君が思い出してくれました。おお、これはもしや「新道ルネサンス」の予兆か…長年途絶えた高三郎への道が今ここに復活し、再び現役生達のもとへと戻っていく…なんてことになれば最高だなと、僕はその時、心ひそかに願いました。

6 月の囲炉裏はちょっぴり熱く、後半は「護摩行」のようになってきたので、水をかけ、明日に備えて寝ることにしました。

ベルクハイムの囲炉裏（6/2 撮影）

【5】高三郎新道、甦る！

翌早朝４時、ベルクハイムを出発。高三郎へと新道整備に向かいました。新道登り口の金山谷には、新しい橋が架かっていました。去年までの丸太橋はもう無く、ちょっと上流側に新しい橋が架けられていました。前よりも低いので、万が一落ちても大丈夫です。

金山谷の新しい橋（6/3 撮影）

金山谷を渡り、今回の作業場である高三郎頂上付近へと向かいます。草刈り機などの資材を荷揚げするため、滴り落ちる汗を拭き拭き、新道を黙々と登りました。そんな時、現役生の吉田君（2 年）が傍らでポロリと言いました。「僕はこんなきついコース初めてです」と…。

新道は「新人トレーニングコース」とばかり思い込んでいた僕には、ちょっと意外でした。でもよくよく考えてみると、それは先輩からの伝承があったからこその思いなのですよね。それが途絶えてしまった今の現役生にしてみれば、新道は上級者向けの難コースであり、ましてや高三郎なんぞは秘境中の秘境なのでしょう。実際、東京の冒険ツアー会社（パワーゾーン）では、高三郎ツアーを組んでいて、「白山連峰の秘峰、マニア垂涎（すいぜん）の山」などという粋なキャッチフレーズで参加者を募集していたりします（黒崎氏紹介より）。新道は、今やちょっとした「冒険コース」になっているようです。道理でしんどいはずです。旧道分岐直前の急登なんかは、まさにワールドカップ級…「激坂、半端ないって！」です。

途中、昼寝岩で休憩しました。コシアゲ谷からの涼風が、なんとも気持ち良かったです。「昼寝岩」を懐かしいなと感じたあなた、ぜひもう一度、新道にチャレンジしてみてはいかがでしょう。

「昼寝岩」で休憩（6/3 上馬氏撮影）

ベルクハイム出発から５時間半。やっと作業現場に到着しました。9 時過ぎより草刈り機を使って作業開始。坂尻さんの大活躍により、濃密なブッシュが草刈り機によってバンバンと吹っ飛んでいきます。そして、いよいよ最後の１本。この灌木は、のこぎりを使って丁寧に切り倒しました。ドサッ…4 年越しの作業が、遂に完了しました。

万歳三唱、最後の一本を伐採（高三郎頂上付近、6/3 撮影）

高三郎頂上の三角点周辺もきれいに整備し、そしていよいよ記念撮影です。用意してきた横断幕

「祝、KUWV 高三郎新道、甦」を掲げて、残雪の上に並びます。空はブルースカイ！…絶好の記念撮影日和です。後列 4 人は「60 周年記念 T シャツ」を着てポーズを決めます。見て下さい、表と裏のデザインがアピールできるように、各自着分けているのが分るでしょうか。どんなときでも、ちょっとなにかしたくなるのが、ワンゲル魂です。

新道、甦るなり（高三郎頂上、6/3 上馬氏撮影）

祝いの酒（高三郎頂上、6/3 撮影）

その後は、持参の酒でささやかな乾杯。振り返ると犀奥の山々が見えます。白山まで届くこの道に、青春のエネルギーを燃やしましたね。その日々が走馬灯のように甦ってきます。

見越・奈良・大笠・白山（高三郎頂上、6/3 上馬氏撮影）

【6】感想と今後について

(1) 取水ホースの漏水補修

これは直近の課題でしょうか。大島さんの応急処置で暫く持てば良いのですが…

(2) 小屋前の朽ちたニセアカシアの伐採

昨年からの持ち越し課題です。今回は伐採プランを練りました。次回はその執行あるのみです。

(3) 高巻ルートの整備

崩壊が進む倉谷ルートの代替えとして、必要性が高まってきました。「できるだけ登らない」を合言葉に、今後も整備を進めていきましょう。

(4) 新道の保守

4 年間続いた新道整備も今回でひと段落。今後は、この道を多くの人々に楽しんでもらいたいものです。春はシャクナゲ、秋は紅葉…「懐かしの高三郎ツアー」をお楽しみ下さい。ただ、その際は、「のこぎり一本」をご持参下さい。皆さんの「ボランティア整備」に期待します。

(5) 作業を終えて

最終日は快晴。作業目標も達成し気分は最高。ベルクハイムからダムまでを、皆でワイワイと楽しく歩きました。同伴する OB の皆さんはその道の専門家ばかり。目に入るものがすぐに話題となり、しかも解説付きで返ってきます。動植物、地質、歴史、心理、化学、宇宙…など、話が尽きません。まるで青空教室です。この楽しさを現役生達とも分かち合いたい。自然を観察しながら皆でワイワイとベルクハイムへ行ける、そんな「ハイキングコース」みたいな道がもう一本（今の通行止めルートを迂回するようにして）あると素敵だな、と思いました。それは、鍵の制約が無く、いつでも誰でもが、安全に気ままに行ける道です。

ありがとう、高三郎（犀川ダム、6/4 上馬氏撮影）